

再評価結果（令和6年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：高松 諭

事業名：中部横断自動車道(富沢～六郷) <small>ちゅうぶおうだんじどうしゃどう とみさわ ろくごう</small>	事業区分：高速自動車国道 <small>こうすく自動車 くにどう</small>	事業主体：国土交通省 関東地方整備局 <small>くにこうつうしょう かんとうちほうせいびきょく</small>
起終点：自：山梨県南巨摩郡南部町 <small>やまなしけん みなみこまぐんなんぶちやう</small> 至：山梨県西八代郡市川三郷町 <small>やまなしけん にしやつしろぐんいちがわみさとちやう</small>	延長：28.3km	
事業概要：中部横断自動車道は、日本列島の中央部を南北に結ぶ延長約137kmの高速自動車国道である。富沢～六郷間は、広域的な高速道路ネットワークを形成し、物流の効率化や救急活動の支援、災害時の代替路の確保等を図ることを目的とした、南巨摩郡南部町から西八代郡市川三郷町までの延長28.3kmの4車線（当面2車線で整備）の道路事業である。		
H17年度事業化（整備計画変更）	H18年度用地着手	H20年度工事着手
全体事業費	約3,154億円	事業進捗率（令和5年3月末時点）
		約97%
		供用済延長
		28.3km
計画交通量：11,800～15,100台/日		
費用対効果分析結果	B/C：(事業全体) 1.4 (0.7)	総費用：(事業全体) 7,620億円 （事業費：7,191億円 維持管理費：379億円 更新費：50億円）
		総便益：(事業全体) 10,690億円 （走行時間短縮便益：9,510億円 走行費用減少便益：1,013億円 交通事故減少便益：167億円）
		基準年：令和5年
感度分析の結果：【事業全体】交通量：B/C= 1.4～1.4（交通量 ±10%） 事業費：B/C= 1.4～1.4（事業費 ±10%） 事業期間：B/C= 1.3～1.5（事業期間 ±20%） 【残事業】交通量：B/C= - 事業費：B/C= - 事業期間：B/C= -		
事業の効果等：(1) 周辺道路の交通量の減少 ・中部横断自動車道の開通に伴い、並行する国道52号の交通量は、新清水JCT～六郷IC間の開通前と比べ約5割減少。 (2) 物流の効率化 ・中部横断自動車道の開通に合わせて、清水港へ搬入するための物流センターがIC周辺に開設。		
関係する地方公共団体等の意見：山梨県知事の意見： ・令和3年8月に全線開通した中部横断自動車道の静岡・山梨間は、周辺地域に、県外からの集客も見込んだ大規模商業施設が進出するとともに、様々な分野の国内有力企業が立地するなど、本県にとって大きな開通効果をもたらしております。 ・県では、円滑な事業推進に向け、引き続き、沿線市町村とともに、必要な事業協力を実施して参りますので、国においては、県や沿線市町村と連携しながら、コスト縮減に努めつつ、残る事業を速やかに進めるようお願いします。		
事業評価監視委員会の意見：事業の継続を了承する。		
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等：・地元情勢の変化や事業を巡る社会経済情勢等に変化は見られない。		
事業の進捗状況、残事業の内容等：・平成3年12月 新清水JCT～増穂IC間の基本計画決定、平成8年12月 同区間の整備計画決定。 ・平成18年2月 新清水JCT～増穂IC間の整備計画の変更（富沢IC～六郷IC間を直轄高速方式で整備）。 ・用地進捗率100%（平成27年度取得完了） ・下部温泉早川IC～六郷ICについては、平成31年3月に開通。 ・富沢IC～南部ICについては、令和元年11月に開通。 ・南部IC～下部温泉早川ICについては、令和3年8月に開通。 ・今後は、建設発生土の撤去及び発生土搬出に必要な工事用道路の撤去を実施。		
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等：・残る建設発生土の撤去及び発生土搬出に必要な工事用道路の撤去等について、建設発生土の搬出予定先となっている関係機関との協議に、一定程度の時間を要しているところ。		
施設の構造や工法の変更等：・引き続きコスト縮減に努めながら事業を推進していく。		
対応方針：事業継続		

対応方針決定の理由

以上の事業効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は高いと考えられる。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。